

軽井沢中学校の地域防災拠点開設・運営訓練で 避難所受付のデジタル化に向けた実証実験を実施します！

西区では、「横浜DX戦略」に掲げる「デジタル区役所」のモデル区に選定されたことを受け、取組を確実に進めるため、「西区デジタル区役所モデル区プロジェクト（裏面参照）」を組織しました。

本プロジェクトでは、「デジタル区役所」のコンセプトである「書かない・待たない・行かないそしてつながる」の実現に向けて、各分野の事業者の協力を得ながら様々な実証実験に取り組んでいます。

このたび、モデル区の実証実験として二次元コードを活用した避難所受付の実証実験を実施しますので、お知らせします。

1 避難所受付の課題とデジタル化により期待される効果

現在、避難所で受付を行う際、手書きの避難者カードを使用しているため、記載場所の順番待ちが発生し、滞留が考えられます。

また、区災害対策本部においても、アナログ主体の受付では、避難者情報の集約・管理に係る過大な作業負荷、リアルタイムでの各避難所の受入状況の把握が困難という課題もあります。

こうした課題に対して、避難所受付のデジタル化により、「受付時間の短縮・混雑緩和」、「情報集約・管理の効率化」、「避難所の受入・混雑状況等の可視化」が図られ、避難所運営の効率化と利便性の向上が期待できます。

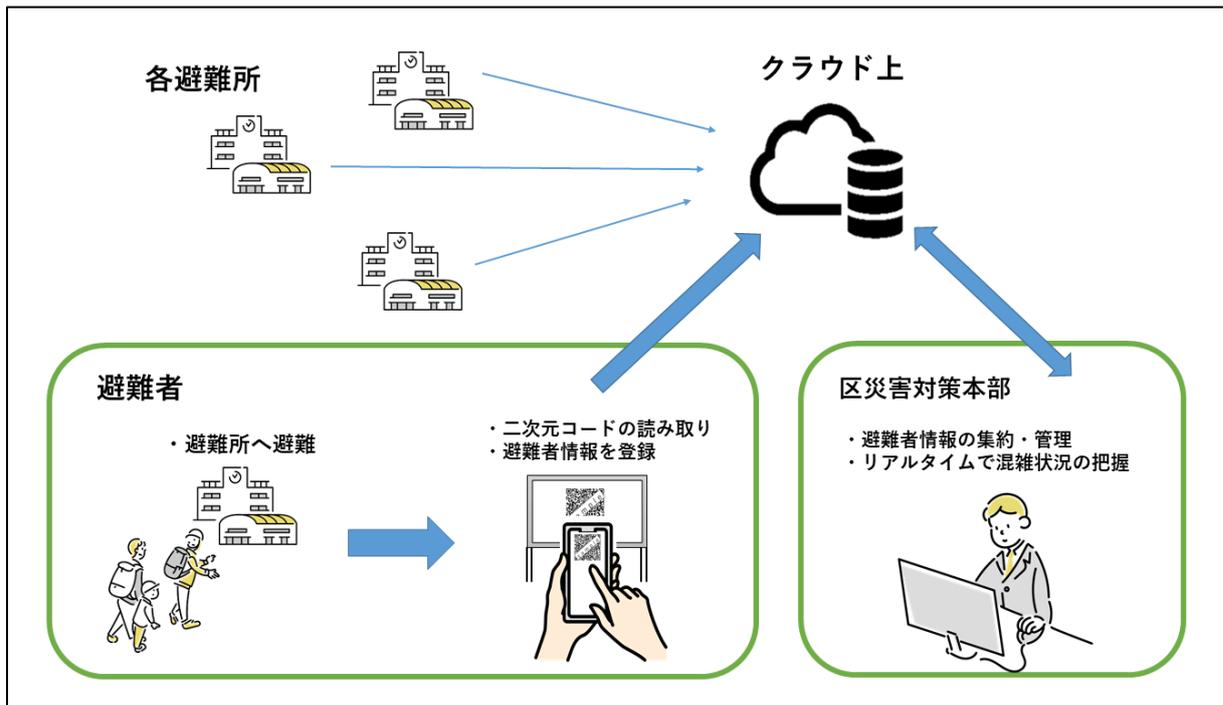


2 二次元コードを活用した避難所受付の実証実験

■実証実験の詳細

場 所	軽井沢中学校体育館（西区北軽井沢24）
実施日	令和5年2月19日（日） 8時30分から9時00分 ※9時00分以降は、通常地域防災拠点開設・運営訓練を実施予定です。
対象者	軽井沢中学校地域防災拠点開設・運営訓練参加者 ※軽井沢中学校地域防災拠点運営委員会の方々（20～30名程度）のみの参加となります。
協力事業者	NTTビジネスソリューションズ株式会社 （サービス名称：避難所受付支援サービス）
概 要	<ul style="list-style-type: none"> 受付に掲出された<u>二次元コードをスマートフォン等で読み取り</u>、氏名、性別、生年月日、住所、電話番号等を入力して受付します。 入力や避難者情報の集約に要する時間を計測し、効果測定を行います。 終了後にアンケートを実施し、導入の課題や今後の方向性について検討します。

■二次元コードを活用した避難所受付のイメージ



※取材をご希望の場合は、お問合せ先までご連絡ください。

西区デジタル区役所モデル区プロジェクトとは

デジタル区役所モデル区として、デジタル技術を活用した業務改善等の取組を確実に推進していくため、西区長をトップに約70名の職員が参画している西区内部のプロジェクトチームです。当該プロジェクトでは、職員一人ひとりが共通認識と当事者感を持ちながら、現場での課題やアイデアを大切にしながら取組を進めています。

本取組について、職員の意識統一と区民の皆様へ西区の取組み姿勢をお伝えすることを目的に取組スローガンを策定しました。

西区は、デジタル区役所の実現に向けてトライし、**つながりを守り、創り、強く**します。

全庁一丸となって、デジタル技術の活用による区民向けサービスの利便性向上や業務効率化に向けて、デジタル化の取組を、つながりを大切に、誰一人取り残さず進めていきます。

お問合せ先

- | | | | |
|--------------------------|------------------------|-------|------------------|
| ○地域防災拠点の訓練に関する事 | 西区総務課長 | 久世 学 | Tel 045-320-8304 |
| ○西区役所で実施している実証実験に関する事 | 西区区政推進課長 | 鈴木 慶 | Tel 045-320-8338 |
| ○横浜DX戦略（デジタル区役所の推進）に関する事 | デジタル統括本部デジタル・デザイン室担当課長 | 洲崎 正晴 | Tel 045-671-4763 |